

春日井ロータリークラブ

クラブテーマ

“未来に向けて 帆を上げよう！”

会 長：川瀬治通
副 会 長：和田了司
幹 事：古屋義夫
会報委員長：青山博徳

事務局：春日井市鳥居松町 5-45
TEL：0568-81-8498 FAX:0568-82-0265
E-mail：ksgj-rc@gaea.ocn.ne.jp
HP：<http://www.kasugai-rc.jp>

例会場：ホテルプラザ勝川

例会日：金曜日 12:30-13:30



本日のプログラム

- | | | | |
|---------------|--------|----------|-------|
| ・点 鐘 | 司会 | 会 場 | 委 員 会 |
| ・ROTARY SONG | 会長 | 川瀬 | 治通君 |
| ・今月の歌 | | 「四つのテスト」 | |
| ・ビジター紹介 | 会長 | 川瀬 | 治通君 |
| ガバナー補佐 | | 加藤 | 久仁明君 |
| 地区副幹事 | | 縣 | 政行君 |
| 地区スタッフ | | 岩瀬 | 清君 |
| 分区幹事 | | 成瀬 | 浩康君 |
| 分区副幹事 | | 大原 | 泰昭君 |
| 小牧RC会長 | | 長尾 | 秀義君 |
| 小牧RC幹事 | | 山本 | 邦夫君 |
| 東京海上日動愛知北支店次長 | | 長曾 | 篤志様 |
| ・食事・歓談 | | | |
| ・委員会報告 | | | |
| ・会長挨拶 | 会長 | 川瀬 | 治通君 |
| ・補佐講話 | ガバナー補佐 | 加藤 | 久仁明君 |
| ・幹事報告 | 幹事 | 古屋 | 義夫君 |
| ・点 鐘 | 会長 | 川瀬 | 治通君 |

今月の歌

「我は海の子」
我は海の子 白浪の
さわぐいそべの 松原に
煙たなびく とまよこそ
わがなつかしき 住家なれ

先週の記録

会長挨拶

会長 川瀬 治通君

「食品ロス」

私たちは毎日の暮らしの中で、ごはんお茶碗1杯分に相当する、まだ食べられる食品を捨ててしまっています。家庭では、食材を使いきれずに捨て

2018年8月10日(金)2376回(8月第2例会)

てしまったり、作り過ぎて食べ残したり、賞味期限が切れてしまったりして、また、食品メーカーや小売店では売れ残りや賞味期限切れ等。そして、外食産業では食べ残しが多いのが現状です。このように、食べることができるのに捨てられてしまう食品のことを「食品ロス」と呼んでいます。日本の食品ロスは年間640万トンです。日本のコメの年間収穫高が820万トン、魚介類の食用消費量が620万トンなので、日本での食品ロスがいかに膨大なものであるかがわかります。これを一人当たりで換算すると、毎日ご飯お茶碗1杯分を無駄にしているという計算になります。そして、一般家庭から出る廃棄量がその45%にあたる280万トンということに驚かされました。日本が「廃棄大国」と呼ばれるのもうなずけます。また、世界的で廃棄されている食品は年間13億トンと言われ、世界全体の食糧生産の3分の1にあたります。食品ロスをいかに減らしていくかは世界的にも大きな課題で、2015年に国連で定められた「2030年目標」の中にも食品ロスの削減に取り組むことが明記されました。食品ロス発生の要因は多岐にわたり、その対策は一朝一夕にはいかないと思いますが、少しでも食品ロスを減らそうという具体的な取り組みも始まっています。アメリカでは外食での食べ残し食品を持ち帰ることを推奨しており、お店が「ドギーバッグ」という容器を用意してくれています。フランスではスーパーなどに対し、売れ残った食品の廃棄を法律で禁止し、ボランティア団体への寄付を義務付けています。デンマークでは賞味期限切れや包装が痛んだ食品の専用スーパーがオープンし、半額くらいで売られているそうです。日本でも「フードバンク」と呼ばれる活動が行われています。様々な理由で処分されて

会員増強・新クラブ結成推進月間

例会予定	8月17日(金)	8月24日(金)	8月31日(金)	9月7日(金)
	休会(定款8-1)	祝福 卓話春日丘高校IAC 地区大会PR訪問	ガバナー公式訪問 (犬山RC合同)	第3回理事会 11:30~ 卓話 JR 春日井駅南東地区市街地再開発組合 諸戸 健司様 野村不動産株 朝比奈 孝誠様

しまう食品を食べ物に困っている施設や人に届ける活動です。この活動は受け取る側、企業側だけではなく行政にとってもメリットがあり、全国に広がりを見せています。また、長野県松本市から始まった「残さず食べよう！3010（さんまるいちまる）運動」が環境省も認める全国的な運動になっています。これは宴会時の食べ残しを減らすためのキャンペーンで、「乾杯後 30 分は席を立たずに料理を楽しみましょう。お開き 10 分前になったら自分の席に戻って再度料理を楽しみましょう」と呼び掛けて、食品ロス削減するものです。さて、私たちの例会はどうでしょうか。万が一、食事が不足するといけないので、余裕をもって食事をオーダーしているため、いつも数人分の食事が余っています。食欲旺盛な若い会員が余った分を食べてくださっていますが、それでも残ってしまうことが多くあります。例会参加の人数を把握するために、皆さんに例会への出欠報告をインターネットでお願いしています。これは「少しでも食品ロスを少なくしたい」という気持ちから行っているもので、私たちのクラブだけではなく多くのクラブが行っています。「例会の食事代は会費として払っているのだから、何も言わずに欠席する権利が自分にはある」と言われる方がおられます。そうではないと思います。「食品ロスを少なくすることは、ロータリアンの義務」だと思います。インターネットが苦手な方は電話で結構ですので、事務局にご連絡ください。ロータリアン一人一人が「もったいない」の気持ちを大切に、食品ロスを減らす努力をしていきましょう。

幹事所感 幹事 古屋 義夫君

社会奉仕委員会に開催していただいた 8 月 3 日の例会の中、先進国である我が国、日本における貧困児童数が 7 人にひとりもいるなんて私は大きなショックを受けました。携帯電話も持っているような子供が多いなかで、その子供たちが 14~15% も貧困の定義に当てはまるなんて…日本国民の可分所得が少なくなり結果として弱者である子供たちにしわ寄せが行き子供たちに使用すべきお金が回ってこないという事ですね…

当然ながら教育も手薄になりその子供たちが大人になってもまた貧困に喘ぐことになる。ロータリークラブとしても知恵を絞り取り組むべき重要な課題であると思いました。

◎例会変更のお知らせ

江 南	8月23日(木)→8月24日(金) 12:30~
R C	ガバナー公式訪問の為 尾張旭商工会館

◎例会休会のお知らせ

江南RC 8月16日(木)休会
名古屋城北RC 8月14日(火)休会

出席報告 委員長 小柳出 和文君

会員 53名	欠席 22名	出席率 58.4%
先々週の修正出席	—	—

ニコボックス報告 委員長 藤川 誠二君

○ポイ捨て防止活動参加の皆さん ありがとうございます
ございました。 川瀬 治通君

○米山奨学生の易様がお見えになった喜びで。
清水 勲君

○易さん お久しぶりです。
山田 治君

○先日、家内の誕生祝いをいただきました。ありがとうございます。
場々大刀雄君

○8月になりましたね。これからまだしばらく暑いので気を付けて参りましょう。
古屋 義夫君

○出席管理システム出来ました。
小柳出和文君

○少し先ですが、大相撲の春日井場所があります。
チケットよろしく。 松尾 隆徳君

○祝 ドラゴンズ最下位脱出！
青山 博徳君

○日比君のお話を聞く喜びで。
足立 治夫君 稲垣 勝彦君 梅村 守君

小川 長君 北 健司君 貴田 永克君

加藤 茂君 加藤 宗生君 近藤 太門君

社本 太郎君 宅間 秀順君 朽本 正樹君

友松 英樹君 内藤 修久君 西尾 隆吏君

速水 敬志君 藤川 誠二君 三上 努君

屋嘉比良夫君 和田 了司君

卓話 日比 雄将君

みなさん、こんにちは。日比雄将です。本日は、諸先輩方の前で卓話をさせていただきますことに感謝申し上げます。前回、卓話をさせていただいたのが 2 年前（2016 年 8 月 5 日）で、この時は長男の出産についてお話をさせていただきました。その長男も今や 2 歳となり、保育園ではわんぱく坊主として先生の手を煩わせています。時が経つのはあつという間だなあと感じます。さて、私は今年度、社会奉仕委員会の委員長を仰せつかりました。そこで、本日は卓話の機会を活用させていただき、みなさまのお知恵を借りながら、社会奉仕について考えてみたいと思います。今年度、村井ガバナーは「あなたの街でロータリーを！あなたの街からロータリーを！」を地区方針に掲げ、そのころとして「ロータリー活動の基礎となる奉仕の理念を例会の中から学び、その実践を自分自身が活動してる街、地域、生活圏、クラブでしっかりと

行い、そして同時にそこからロータリー活動を広げていこうという意を込めました。」と記されています。未熟な私がこの思いを深く理解することはできませんが、少し意識した卓話を心掛けてみたいと思います。本日は「わかりやすいロータリー」を持ってきました。ここには社会奉仕について次のように書かれています。社会奉仕は、ロータリアン一人ひとりが「超我の奉仕」を実証する機会です。地域に住む人々の生活の質を高め、公共のために奉仕することは、すべてのロータリアン個人にとっても、またロータリー・クラブにとっても献身に値することであり、社会的責務でもあります。そして、この「超我の奉仕」は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものであると説かれています。そこで、私はまず自らチャレンジしようと、先日、7月豪雨の被災地支援ボランティアとして岡山市東区のボランティアセンターに行ってきました。この地区は報道ではあまり取り上げられておりませんが、砂川という河川の堤防が100メートルにわたり決壊し、2230棟が浸水（そのうち約7割が床上浸水）する被害にあいました。決壊地点の東から南東にかけ1キロほどの範囲に平島団地を始めとした大規模団地が広がり、決壊した水が流れ込んで被害が拡大したそうです。ボランティアセンターに到着するとそこには全国各地からのボランティアの方が集まっていました。ボランティア登録等の受付を済ますと、数人単位にまとめられ、支援を求められている場所、内容等が記載されたホワイトボードにもとづき、「あなたたちはここに行って、こういう作業をしてください」といった簡単な説明を受けた後、現場に向かいます。災害から1週間経過した町は、すでに水は引いているものの全体が砂っぽく、またちょっとした空き地にはテレビ、冷蔵庫、タンス等々が山として積み上げられていました。私が行った作業は、被災家屋の掃除やゴミ運搬ではなく、用水路およびその脇の道の整備でした。用水路にはどこから流れてきたのかタイヤがいくつも浮かんでおり、また道には泥水を含んだ土砂が堆積していましたので、これを元通りに戻す作業に従事しました。最大の敵は暑さでした。当日は35度を超え、現場には陽射しを遮るスペースが全くありません。泥水の運搬ということで当然臭いもあり、始めはマスクを着用しておりましたが、暑さと汗で呼吸も苦しくなり、とてもマスクをつけられる状況ではありませんでした。常に水分と塩分を補給しながら作業をしましたが、実質2時間30分で作業は終了となりました。正直、これ以上の作業は体力的に厳しかったと思います。いまなお復旧支援は続いておりましたが、この暑さがなければもっと作業がはかどるはずなのに、ともどかしい思いもしま

す。従前の生活に落ち着くまでにはまだ相当の期間がかかるでしょう。一般ボランティアの募集個所は減少しつつありますが、まだまだ様々な支援が必要です。春日井ロータリーでも義援金の募集を行うこととなりました。こうした活動がとても大切だと感じます。さて、今回ご紹介した活動は、非常時での活動であります。しかし、ここ春日井において、平時にもロータリアン一人ひとりが「超我の奉仕」を実践する場があると思います。そこで、ひとつの事例として「こどもの貧困」問題について触れさせていただきます。「日本では7人に1人の子どもが貧困状態にある」。こう聞いてみなさんは実感が湧くでしょうか。貧困と聞くと、食べ物や着る服を用意するのも困る「絶対的貧困」をイメージするかもしれませんが、しかし、日本でこの問題を語る際には、「相対的貧困」という指標が用いられます。「相対的貧困」とは、貧困ラインに満たない暮らしを強いられている状態で、貧困ラインに満たない暮らしとは、国民の可処分所得（給料のうち「自由に使えるお金」で税金や社会保険料を差し引いて手元に残ったお金）を高い人から低い人まで順番に並べた時に、ちょうど真ん中にくる値の半分以下になる水準未満で生活している状態のことを指します。2015年の統計では、日本の可処分所得の真ん中に来る値は245万円でしたので、貧困ラインは122万円となります。また、世帯あたりの貧困ラインを算出するにあたっては、家族で共有できる生活必需品も多いため、2人家族であれば2倍ではなく $\sqrt{2}$ 倍（約1.4倍）、3人家族であれば $\sqrt{3}$ 倍（約1.7倍）と計算し、親1人、子1人の家庭の場合は $122 \text{万円} \times \sqrt{2} \approx 170 \text{万円}$ となります。この金額は、衣食住をまかなうのにギリギリで、「学習塾に通う」とか「ちょっとした旅行に行く」など、社会の中で「普通」とされる営みができません。このような状態を「相対的貧困」といいます。相対的貧困は「見えづらい」のが特徴です。例えば、最近は服や靴が格安で手に入りますし、ほとんどの家庭で子どもはスマートフォンを所持しています。つまり着ているものや持ち物は普通の家庭と変わりません。加えて、生活の厳しさを周囲に伝えることをはばかる方も多くみえ、結果として、周りからは貧困家庭であると思えないことが多いのです。「子どもの貧困」の背景の一つに、ひとり親家庭の置かれている厳しい経済状況があります。2017年の調査では、ひとり親家庭の相対的貧困率は50.8%、つまり、ひとり親家庭の子どもたちの2人に1人が貧困状態にあるのです。また、世帯収入は学力と非常に高い相関関係にあり、大学等進学率は全世帯平均が73.3%なのに対し、ひとり親家庭は41.6%という大きな格差が生じています。生まれた家庭の経済格差は教育格差を生み、それが子どもの将

来の所得格差につながる。こうして今の世代の貧困が次世代の貧困を生む「貧困の連鎖」が続くのです。このことは、税金や社会保険料を納める金額が減っていくのと同時に、生活保護などの公的支出が増えていくことを意味します。子どもの貧困がもたらす社会的損失の影響は非常に大きくなっていくのです。だからこそ、「貧困の連鎖」を断ち切り、社会全体の将来の損失を減らすことが大切で、構造的な課題を解決していくための対策が取られ始めています。愛知県でも、実効性のある子どもの貧困対策を実施するため、平成 28 年 12 月に県内全域を対象として「愛知 子ども調査」を実施しました。そして、調査結果を踏まえ、今年 3 月、具体的な取組を推進していくための 5 か年ロードマップを公表したところです。その中に「子ども食堂」の設置拡大という目標を掲げています。「子ども食堂」はまだまだ認知度が低いと思いますので、簡単に説明します。「子ども食堂」は地域の大人が子どもに無料や安価で食事を提供する民間発の取り組みです。貧困家庭や一人で食事をとる子どもに食事を提供し、安心して過ごせる場所として 2012 年ごろから始まりました。最近では、地域のすべての子どもや親、地域の大人など、対象を限定しない食堂が増えており、また、食堂という形を取らず、子どもが放課後に自宅以外で過ごす居場所の中で食事を出しているところもあります。県では、開設時の課題や開設後の効果を検証するモデル事業に取り組むことを先日公表しました。この事業を通じて食堂の普及につなげ、貧困などを理由にした子どもの孤立を防ぎたい考えです。春日井にも子ども食堂があります。篠木町で活動を展開する「はらぺこ食堂」さんです。ここでは主婦の方々が中心となって、みなさまに未利用食品の提供を呼びかけながら、頂いた食料をもとに毎月第 3 金曜日に子どもたちや親御さんに安価な食事（子どもは無料、大人は 500 円程度の寄付）を提供しています。昨年 9 月に私がお邪魔した際には、愛知県の副知事と健康福祉部長がみえ、現場の実態を勉強されていましたが、まだまだ認知度が低いこと、財政面が脆弱であること等、軌道に乗った運営ができているとは言い難い状況です。ここまで「子どもの貧困」問題について触れさせて頂きましたが、子どもたちを取り巻く課題はほかにも様々あり、「虐待」、「引きこもり」、「障害者」等々、様々な要因で社会に参画しにくい状況がありながらも懸命に頑張っている子ども、そしてそれを支援する団体はたくさんあります。そうした方々に何らかの形で春日井ロータリーの社会奉仕活動ができないかと私は考えています。以上、私の考える社会奉仕について述べさせていただきました。本日は貴重なお時間をいただきましたので、ここからはぜひみなさまのご意見やご

感想を伺いたく存じます。よろしくお願ひいたします。以下、頂いたご意見（要旨）を記載します。

【古屋義夫 幹事】

学ぶ機会がないことにより収入が減る。貧困が次世代につながる。という話もあったので、ロータリーとして「学び」についての支援、例えば不要の本や CD をみんなで集め現金化し、学び専門のクーポンに変えて支援する。といったことを考えてみてはどうか。加えて、ロータリーで募金箱を春日井市内に設置すると、ロータリーの知名度が向上するとともに市民の方への啓蒙にもなる。こうした取組はどうか。

【北健司 会長エレクト】

経済的な貧困に焦点が当たりがちだが、様々な貧困、一例としては春日井の文化を語るうえで脆弱な分野（文化的貧困）もある。社会奉仕は様々な分野で行えるので、一人ひとりが個々の視点で出来ることを行っていくことも一つの方法。「We Serve」はどうしても一つの方向に行きがちであり、多岐にわたった社会奉仕ができる「I Serve」の考えも大切だと思う。



昨年までの米山奨学生 易敏さん



卓話 日比 雄将君